

## 2022 年度支部活動【関東支部】

### 「つながる、地域の日本語教育・支援」開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会

開催日：2022年8月20日(土) 会場：オンライン (Zoom)

参加者：49名 (会員35名・一般14名)

関東支部では「つながる、地域の日本語教育・支援」と題して、8月20日(土)にオンライン (Zoom) で支部活動を行いました。当日は、参加者49名(会員35名・一般14名)の方にご参加いただきました。支部活動は第1部と第2部で構成され、第1部では茨城大学の福村真紀子氏をお迎えし、「日本語にこだわらない日本語教育のススメ」というタイトルでご講演いただきました。講演では、ご自身が東京都日野市で立ち上げた「多文化ひろば あいあい」の活動や変遷についてご紹介いただき「先生と生徒という枠組み」を超え、「参加者が主体となって交流の場を作る」という取り組みについて、豊富な資料を交えお話いただきました。講演の中で、外国から日本へやってきて日常生活で苦労することも多い中、「多文化ひろば あいあい」が居場所となり救われたという、生活者の方のインタビュー動画などを見せていただき、彼らが安心できる場を作ることがいかに重要か、ということが改めて感じられました。その後のワークショップでは、実際に私たちが「日本語にこだわらない日本語教育」を実践するとしたらどのようなことができるかなどについて、グループに分かれて話し合いました。講師の福村氏の熱意に溢れた実践に触れ、各グループでも熱気あふれる議論が行われていました。

続く第2部では、「第3の場所 (サードプレイス)」、「いろいろな形の活動」、「複言語・複文化」、「対話」、「多様性」をキーワードに、関東地域で日本語教育・支援を行っている団体の代表をお迎えし、各団体での活動のご紹介いただくとともに、参加者も交え情報交換・意見交換を行いました。今回、お迎えした団体は、「TABUWATA」(栃木県)、「高崎市国際交流協会」(群馬県)、「しもつま外国人支援ネットワーク TOMODACHI」(茨城県)、「にほんご わせだの森」(東京語)の4団体でした。それぞれの団体ごとにブレイクアウトルームを設け、参加者が自由に各ルームへ参加できるようにしました。今回の支部活動では、活動のタイトルにもあるように、実践者やこれから実践しようと考えている人同士が「つながる」一歩となることを目的に企画を立案しました。情報交換・意見交換の場では活発な話し合いが行われ、対話を通して参加者同士がつながっていく様子が見え、うかがえました。

事後アンケートにはたくさんのコメントが寄せられました。参加者を地域別で見ると関東在住の方が約70%、それ以外の地域の方が約30%でした。アンケートの結果、第1部、第2部ともに満足度が高く、地域における日本語教育・支援のあり方について情報共有の機会を望むご意見が多数見られました。ただ、第2部については「時間が足りなかった」、「すべての団体の話を聞きたかった」というご意見もあり、オンラインでの開催の利点を生かしつつ、さらによりよい運営について、まだまだ検討する余地があることに気付かされました。今回の経験を活かし、これからもさらに多くの企画を打ち出していくことができたら、と思います。

支部活動にご参加くださった皆さま、そしてご協力くださった関係者の皆さまに心よりお礼申し上げます。

(報告者 支部活動委員：田川恭識，世良時子，井上里鶴，國澤里美)